

## 単純集計

はじめに、単純集計の結果を説明しておく。本章では、第一に、特別清掃に就労している人たちが、どのような人たちなのかを明らかにすることを目的とする。第二に、2年前に行われた2007年度調査と比較することにより、この2年間でどの層が新規に流入してきて、どの層が特別清掃に滞留する結果になったのかを明らかにすることを目的とする。そして、今後の特別清掃事業の目指すべきかたちを検討できればと思う。

### (1) 年齢

2009年度調査			2007年度調査		
項目	度数	割合	項目	度数	割合
60歳未満	201	25.0%	60歳未満	637	44.3%
60以上65歳未満	354	44.1%	60以上65歳未満	600	41.7%
65以上70歳未満	186	23.2%	65以上70歳未満	162	11.3%
70歳以上	62	7.7%	70歳以上	40	2.8%
有効回答数	803	100.0%	有効回答数	1439	100.0%
不明・無回答	18	2.2%	不明・無回答	23	1.6%
回答総数	821	100.0%	回答総数	1462	100.0%

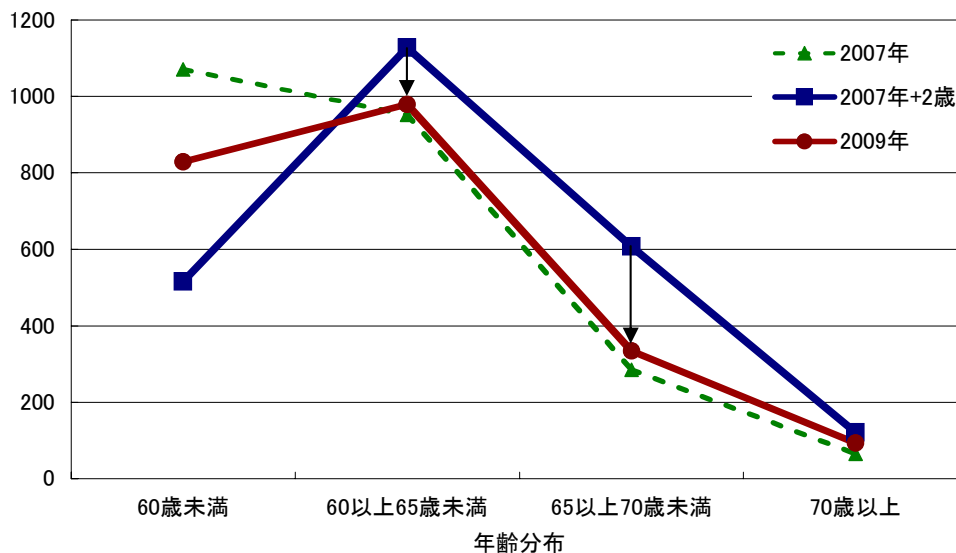
表1 年齢分布 (2009年度調査・2007年度調査)

特別清掃に登録できる年齢は、基本55歳以上であるが、障害などがかかっている場合は例外がある。年齢についてみると、最年少は53歳、最高齢は81歳、平均年齢は62.6歳となった。60歳未満では25.0%、60以上65歳未満では44.1%、65以上70歳未満では23.2%、70歳以上では7.7%となった。生活保護にかかったとき、身体の状態にかかわらず就労指導をされない年齢である、65歳以上の割合が3割以上となっている。2007年度調査と比較すると、60歳未満の割合が約2割減少し、65以上70歳未満の割合が約1割増加し、高齢者の割合が増えていることがわかる(表1 年齢分布 (2009年度調査・2007年度調査))。

次に、2007年度と2009年度の年齢分布を比較するために、2007年度+2歳と2009年度の特別清掃登録者の年齢分布のグラフを作成する(図1 特別清掃登録者の年齢分布)。2007年度に登録した輪番労働者がそのまま残っていた場合、2009年度では2歳年をとるので、2007年+2歳のグラフになるが、2009年と比較すると、「65以上70歳未満」と「60以上65歳未満」で人数が著しく減少しているのに対して、「70歳以上」ではほとんど変化していないことがわかる。これは「65以上70歳未満」と「60以上65歳未満」の両年齢層で、主に生活保護を受給することにより、特別清掃から卒業し、新規登録者も多くなかったと推測される。一方で「70歳以上」の層は、特別清掃に滞留した状態にいる、もしくは生活保

護などで抜けた人数と同じくらい新規の登録者がいたということを示している。

図1 特別清掃登録者の年齢分布



(2) 釜ヶ崎に来たときの年齢

釜ヶ崎に来たときの年齢をみると(表2 釜ヶ崎に来たときの年齢)、20歳未満で2.9%、20歳代で11.2%、30歳代で21.8%、40歳代で25.4%、50歳代で30.8%、60歳以上で7.9%となった。若い頃から釜ヶ崎に来て日雇い労働に従事している層(30歳未満で釜ヶ崎に来ている割合は14.1%)よりも、一定年齢を重ねてから釜ヶ崎に来ている層(50歳以上で釜ヶ崎に来ている割合は38.7%)が多いことがわかる。

項目	度数	割合
20歳未満	23	2.9%
20歳代	89	11.2%
30歳代	174	21.8%
40歳代	203	25.4%
50歳代	246	30.8%
60歳以上	63	7.9%
有効回答数	798	100.0%
不明・無回答	23	2.8%
回答総数	821	100.0%

表2 釜ヶ崎に来たときの年齢

### (2-1) 釜ヶ崎に来たときの西暦

釜ヶ崎に来たときの西暦についてみると（表 3 釜ヶ崎に来たときの西暦）、釜ヶ崎に来てから 10 年未満の人(2000 年以降)の割合が、30.9%となった。また、1990 年以降、釜ヶ崎は、阪神大震災直後の一時期（1995 年）を例外にすれば、仕事量は一貫して減少しており、こうした厳しい就労状況で流入してきた層は、56.1%と半数を超えている。

年齢分布と釜ヶ崎に来たときの西暦の関係をみると（表省略）、他の年齢層に比べて優位な差がみられたのは、60 歳未満では 1980-1984 年の割合が高く、70 歳以上では、1974 年以前に来た人、2005 年以降に来た人の割合が高くなった。70 歳以上の層では、元々長年釜ヶ崎で建築日雇に従事している層と、2005 年以降釜ヶ崎に流入してきた層が混在していることがわかる。

項目	度数	割合
74 年以前	91	11.6%
75-79 年	67	8.5%
80-84 年	99	12.6%
85-89 年	88	11.2%
90-94 年	95	12.1%
95-99 年	103	13.1%
00-04 年	156	19.8%
05 年以降	87	11.1%
有効回答数	786	100.0%
不明・無回答	35	4.3%
回答総数	821	100.0%

表 3 釜ヶ崎に来たときの西暦

### (3) 野宿・シェルター経験

2009 年度調査			2007 年度調査		
項目	度数	割合	項目	度数	割合
経験あり	707	86.7%	経験あり	1123	88.1%
経験なし	108	13.3%	経験なし	152	11.9%
有効回答数	815	100.0%	有効回答数	1275	100.0%
不明・無回答	6	0.7%	不明・無回答	187	12.8%
回答総数	821	100.0%	回答総数	1462	100.0%

表 4 野宿・シェルター経験（2009 年度調査・2007 年度調査）

野宿やシェルターを利用したことがあるかどうかたずねたところ（表4 野宿・シェルター経験（2009年度調査・2007年度調査）、野宿した経験がないという人が13.3%、野宿した経験があるという人が86.7%いた。2007年度の調査と比較しても、野宿経験の有無に差異は見られなかった。

#### (4) 初めて野宿してからどれくらい経つか

初めて野宿してからどのくらい経つかという質問に対して、最初に野宿を余儀なくされてからずっと野宿しているわけではないかもしれないが、この10年で生活が困窮し、野宿をはじめている人の割合が約8割（78.9%）にもものぼっている（表5 初めて野宿したのはいつか）。

項目	度数	割合
1年未満	60	9.2%
1年以上3年未満	103	15.7%
3年以上5年未満	122	18.6%
5年以上10年未満	232	35.4%
10年以上15年未満	94	14.4%
15年以上	44	6.7%
有効回答数	655	100.0%
不明・無回答	52	7.4%
回答総数	707	100.0%

（ただし、野宿・シェルターを利用したことがある707人を母数にしている）

表5 初めて野宿したのはいつか

#### (5) 寝場所（ここ1ヶ月）

ここ1ヶ月の寝場所について（複数回答）たずねたところ（表6 ここ1ヶ月の寝場所（2009年度調査・2007年度調査）、シェルター（44.8%）、簡易宿泊所（40.2%）、野宿（テント・小屋なし）（16.8%）、自宅（15.9%）、野宿（テント・小屋）（9.4%）、生活ケアセンター（5.5%）となった。

2007年度調査と比較すると、今回の調査の方が、「シェルター」の割合が8.0%、「生活ケアセンター」の割合が2.8%減少しているのに対して、「簡易宿泊所」の割合が7.1%、「自宅」の割合が6.0%と野宿でない状態にある割合、「野宿（テント・小屋なし）」の割合が1.8%増加している。「簡易宿泊所」の割合が高くなっている背景には、後の「(7) 収入（ここ1ヶ月）」でもふれるが、輪番のまわってくる回数が増え、収入が増加したことがあるのでは

ないだろうか。また、「自宅」の割合が高くなっている理由としては、「(8) 収入手段（ここ1ヶ月）」でもふれるが、年金による安定した収入を得ている層が1割存在しており、それによるものではないかと推測される。

2009 年度調査			2007 年度調査		
項目	度数	割合	項目	度数	割合
シェルター	333	44.8%	シェルター	750	52.7%
野宿(テント・小屋)	70	9.4%	野宿(テント・小屋)	148	10.4%
野宿(テント・小屋なし)	125	16.8%	野宿(テント・小屋なし)	214	15.0%
簡易宿泊所	299	40.2%	簡易宿泊所	470	33.1%
飯場・寮	17	2.3%	飯場・寮	27	1.9%
自宅	118	15.9%	自宅	140	9.8%
自宅(生活保護)	1	0.1%	自宅(生活保護)	-	-
施設(生活保護)	6	0.8%	施設(生活保護)	-	-
自立支援センター	8	1.1%	自立支援センター	8	0.6%
生活ケアセンター(三徳寮)	41	5.5%	生活ケアセンター(三徳寮)	118	8.3%
その他	23	3.1%	その他	9	0.6%
有効回答数	744	100.0%	有効回答数	1422	100.0%
不明・無回答	77	9.4%	不明・無回答	40	2.7%
回答総数	821	100.0%	回答総数	1462	100.0%

表6 ここ1ヶ月の寝場所（2009年度調査・2007年度調査）（複数回答）

#### ここ1ヶ月の寝場所の組み合わせ

シェ ルター	野宿(テン ト・小屋)	野宿(テン ト・小屋なし)	簡易宿 泊所	飯場・ 寮	自宅	度数	割合
1	0	0	0	0	0	155	20.8%
0	0	0	1	0	0	141	19.0%
0	0	0	0	0	1	108	14.5%
1	0	0	1	0	0	84	11.3%
0	1	0	0	0	0	48	6.5%
0	0	1	0	0	0	42	5.6%

表7 ここ1ヶ月の寝場所の組み合わせ

ここ1ヶ月の寝場所について、その組み合わせについてみると（表7 ここ1ヶ月の寝場

所の組み合わせ)、最も割合が高かったのが、シェルターのみで 20.8%、次に簡易宿泊所のみで 19.0%、そして自宅のみで 14.5%となった。複数の選択肢をしている中で最も割合が高いのは、シェルターと簡易宿泊所の組み合わせで 11.3%となった。また、野宿（テント・小屋）のみの割合は 6.5%で、野宿（テント・小屋なし）のみの割合は 5.6%にとどまった。

#### (6) 野宿・シェルター日数（ここ 1 ヶ月）

ここ 1 ヶ月、野宿やシェルターを利用した日数についてたずねたところ（表 8 ここ 1 ヶ月の野宿・シェルター日数）、「毎日」と答えた人が 45.6%、「なし」と答えた人が 27.0%となった。毎日野宿している、20 日以上 30 日未満野宿している人を加えた、20 日以上野宿している割合は約 6 割ちかくになる。特別清掃の回数が増えたとしても、多くの人が野宿している状態もしくはシェルターを利用している状態で、特別清掃に就労していることがわかる。

項目	度数	割合
なし	175	27.0%
1 日以上 10 日未満	38	5.9%
10 日以上 20 日未満	65	10.0%
20 日以上 30 日未満	75	11.6%
毎日	296	45.6%
有効回答数	649	100.0%
不明・無回答	58	8.2%
回答総数	707	100.0%

（ただし、野宿・シェルターを利用したことがある 707 人を母数にしている）

表 8 ここ 1 ヶ月の野宿・シェルター日数

#### (7) 収入（ここ 1 ヶ月）

ここ 1 ヶ月の収入をみたところ（表 9 ここ 1 ヶ月の収入（2009 年度調査・2007 年度調査））、最も少ない人で 5,000 円、最も多い人で 220,000 円、平均値は 4,4069 円となった。しかしながら第一四分位点は 30,000 円、中央値 35,000 円、第二四分位点は 50,000 円と、全体の半数が 3 万円から 5 万円の間に入っていることがわかった。それも 3 万円以上 4 万円未満に約 4 割が含まれ、収入が少ない方に偏りがあることがわかった。

2007 年度調査と比較すると、平均で 3,2454 円、第一四分位点は 15,900 円、中央値 20,000 円、第二四分位点は 40,000 円と、2009 年度ではここ 1 ヶ月の収入が増加している。またここ 1 ヶ月の収入が 3 万円未満の割合が、42.8%も減少しており、そのかわり、3 万以上 4 万

円未満の割合が 24.9%も増加していた。この収入の変化の要因は、特別清掃が月何回まわるかによるところが大きいと思われる。つまり、2007 年度は特別清掃がまわってくる回数が 3.5 回、2009 年度では 5.3 回と約 2 回、1 ヶ月あたり 1 万円強の収入の増加が予測され、その結果このようになったと思われる。

2009 年度調査			2007 年度調査		
項目	度数	割合	項目	度数	割合
3 万円未満	134	16.9%	3 万円未満	795	59.7%
3 万以上 4 万円未満	310	39.1%	3 万以上 4 万円未満	189	14.2%
4 万以上 5 万円未満	119	15.0%	4 万以上 5 万円未満	95	7.1%
5 万以上 7 万円未満	114	14.4%	5 万以上 7 万円未満	118	8.9%
7 万以上 10 万円未満	68	8.6%	7 万以上 10 万円未満	64	4.8%
10 万円以上	48	6.1%	10 万円以上	71	5.3%
有効回答数	793	100.0%	有効回答数	1332	100.0%
不明・無回答	28	3.4%	不明・無回答	130	8.9%
回答総数	821	100.0%	回答総数	1462	100.0%

表 9 ここ 1 ヶ月の収入 (2009 年度調査・2007 年度調査)

(8) 収入手段 (ここ 1 ヶ月)

項目	度数	割合
特別清掃	787	99.5%
廃品回収	162	20.5%
日雇	134	16.9%
パート・派遣など	23	2.9%
認定	4	0.5%
年金	78	9.9%
生活保護費	0	0.0%
その他	13	1.6%
有効回答数	791	100.0%
不明・無回答	30	3.7%
回答総数	821	100.0%

表 10 ここ 1 ヶ月の収入手段 (複数回答)

ここ 1 ヶ月の収入手段をみると (表 10 ここ 1 ヶ月の収入手段)、特別清掃と答えた人が

99.5%となった。そして、廃品回収が 20.5%、日雇が 16.9%、年金 9.9%、パート・派遣など 2.9%となった。次に、収入手段の組み合わせについてみると（表 11 ここ 1 ヶ月の収入手段の組み合わせ）、特別清掃のみと答えた人が 51.2%と、特別清掃の収入のみに依存している人の割合が約半数であることがわかった。次に、特別清掃と廃品回収が 18.5%、特別清掃と日雇が 14.3%、特別清掃と年金が 8.8%となった。

#### 収入手段の組み合わせ

特別清掃	廃品回収	日雇	パート・派遣など	認定	年金	生活保護費	その他	度数	割合
1	0	0	0	0	0	0	0	405	51.2%
1	1	0	0	0	0	0	0	146	18.5%
1	0	1	0	0	0	0	0	113	14.3%
1	0	0	0	0	1	0	0	70	8.8%

表 11 ここ 1 ヶ月の収入手段の組み合わせ

年齢分布別に、ここ 1 ヶ月の収入手段との関係をみたところ（表省略）、70 歳以上で年金の割合が高くなったのをのぞいては、年齢による優位な差はみられなかった。特別清掃に登録している 55 歳以上の層においては、若いから日雇に就くことができるという状況ではないことがわかる。

#### (9) 求職活動

項目	度数	割合
求職活動はしていない	295	37.8%
西成労働福祉センター	234	30.0%
知り合いの業者	121	15.5%
NPO 釜ヶ崎	147	18.8%
職安	59	7.6%
求人情報誌	35	4.5%
新聞の求人欄	43	5.5%
その他	14	1.8%
有効回答数	780	100.0%
不明・無回答	41	5.0%
回答総数	821	100.0%

表 12 求職活動（求職活動をしている場合は複数回答）



現在の求職活動については（表 12 求職活動）、求職活動を行っていないと答えた人が 37.8%いた。求職活動している人についてみたところ、どこで求職活動しているか、西成労働福祉センターが、求職活動している人（有効回答数の 780 人から「求職活動はしていない」と答えた 295 人を除いた 485 人）の約半数である 48.2%、NPO 釜ヶ崎が 30.3%、知り合いの業者が 24.9%、職安が 12.2%、新聞の求人欄が 8.9%、求人情報誌が 7.2%の順番になっていた。決まった住所をもっておらず、携帯電話のような連絡先を持っていない場合、求職活動方法もおのずから限られてくる。

#### （10） 求める職種

どのような職種を探しているかたずねたところ（表 13 求める職種）、建築・土木が最も多く 49.7%、次に清掃 37.6%、ガードマン・駐輪整理 23.0%、草刈・園芸 15.7%、工員 9.6%という結果になった。

建築・土木に就くことが一番収入を得られる方法ではあるが、年齢的なこと、体力的なことを考えて、清掃やガードマン・駐輪整理、草刈・園芸など、自分の今の状況でつくことが可能と思われる職種の割合が高くなっている。年齢分布と求める職種の関係をみたところ（表省略）、70 歳以上の層で建築・土木の割合が低くなった以外は、優位な差がみられなかった。

項目	度数	割合
建築・土木	222	49.7%
工員	43	9.6%
ガードマン・駐輪整理	103	23.0%
清掃	168	37.6%
草刈・園芸	70	15.7%
その他	22	4.9%
有効回答数	447	100.0%
不明・無回答	38	7.8%
回答総数	485	100.0%

（質問の対象者は求職活動をしている 485 人）

表 13 求める職種（複数回答）

#### （11） 生活保護の受給経験

今までに生活保護（医療保護・施設保護・居宅保護）を受けた経験があるかどうかたず

ねたところ（表 14 生活保護の受給経験）、今まで生活保護を受給した経験がないと答えた人が 8 割強にもなった。特別清掃という釜ヶ崎の就労面における社会資源につながっているが、福祉面での社会資源にはつながっていないことを示している。

ただ、「(12) 今後の予定」をみると、近々生活保護申請予定（7.4%）と将来的には生活保護申請（55.6%）を加えた 63.0%は生活保護制度の「存在」を、正しく理解しているかどうかは別として、「知っている」ということは言える。

また、生活保護受給経験のある人（有効回答数 649 人から生活保護経験なしの 536 人を除いた 113 人）の約半数が、救急車で運ばれて入院、もしくは外来で病院（ほとんどが無料低額診療施設と考えられる）受診し入院という、入院せざるを得ない状況になるまで生活保護制度につながっていないことがわかる。

項目	度数	割合
居宅保護	28	4.3%
施設保護	27	4.2%
医療保護	58	8.9%
経験なし	536	82.6%
有効回答数	649	100.0%
不明・無回答	172	21.0%
回答総数	821	100.0%

表 14 生活保護の受給経験

## (12) 今後の予定

項目	度数	割合
近々、生活保護を申請するつもり	57	7.4%
将来的には生活保護を申請するつもり	429	55.6%
いずれは就職して、自活したい	105	13.6%
このままの生活を続けていくつもり	180	23.3%
有効回答数	771	100.0%
不明・無回答	50	6.1%
回答総数	821	100.0%

表 15 今後の予定

今後の予定（表 15 今後の予定）として、近々生活保護申請を考えている人は 7.4%にとどまった。将来的には生活保護を考えている人（55.6%）を加えると、生活保護で困窮状

態から抜け出すしかないと考えている人は 63.0%になった。一方、就職自立したいと考えている人は 13.6%だった。また、このままの生活を続けていくつもりと答えた人が 4 人に 1 人にも及んだ。この割合を高いとみるのか低いとみるのかは、次章で「このままの生活を続けていくつもり」を選んだ人たちがどのような人たちか分析、次々章で具体的なケースを紹介している部分を見て、判断していきたいと思う。

### (13) 生活保護をいまずぐ申請しない理由

生活保護をいまずぐ申請しない理由（表 16 生活保護をいまずぐ申請しない理由）として、仕事で得た収入で生活したいが約半数と最も割合が高かった。次に、生活が制限される（22.4%）、親・兄弟に連絡がいく（20.7%）、年が若い（16.6%）、手続きが面倒（12.5%）、年金などの収入がある（11.1%）となった。

生活保護をすぐ申請しない理由の中には、①まだ働きたい、②生活保護のスティグマ的なイメージ、③他の収入源があるというグループがあるように思われる。詳細な分析は次章を参照していただきたい。

項目	度数	割合
仕事で得た収入で生活したい	314	47.9%
年が若い	109	16.6%
親・兄弟に連絡がいく	136	20.7%
借金がある	34	5.2%
年金などの収入がある	73	11.1%
土地・家屋がある	5	0.8%
生活が制限される	147	22.4%
仕事で稼いだ分、保護費が減らされる	12	1.8%
ほかの入居者との関係がわずらわしい	46	7.0%
手続きが面倒	82	12.5%
その他	18	2.7%
有効回答数	656	100.0%
不明・無回答	58	8.1%
回答総数	714	100.0%

（質問の対象者はいまずぐ生活保護を申請するつもりのない 714 人）

表 16 生活保護をいまずぐ申請しない理由（複数回答）

#### (14) いまの生活を続けていく上での希望

「近々、生活保護を申請するつもり」を選ばなかった人たちに対して、今の生活を続けていく上での希望（表 17 いまの生活を続けていく上での希望）をたずねたところ、特別清掃の回数を増やしてほしいと答えた人が約 6 割にも及んだ。特別清掃の回数を増やしてほしいということは、それ以外の収入源がない、もしくはそれ以外の収入源はあてにならなくて、特別清掃に頼らざるをえない層がいることを示している。また同じ収入源から考えると、アルミ缶の回収値段をあげてほしい（10.7%）も廃品回収に頼らざるをえない層がいることを示している。

その一方で、常用雇用で働きたい（9.0%）、建築日雇で働きたい（3.8%）など、現在の状況から大きくかわる仕事に対する希望は低くなっている。

収入面ではなく、安定した生活の確保のため、住居で暮らしたいと答えた人は 15.0%にとどまった。

項目	度数	割合
輪番回数を増やしてほしい	386	58.0%
住居で暮らしたい	100	15.0%
建設日雇で働きたい	25	3.8%
アルミ缶の買取値段をあげてほしい	71	10.7%
常用雇用で働きたい	60	9.0%
その他	8	1.2%
とくにない	16	2.4%
有効回答数	666	100.0%
不明・無回答	48	6.7%
回答総数	714	100.0%

（質問の対象者はいまずぐ生活保護を申請するつもりのない 714 人）

表 17 いまの生活を続けていく上での希望（複数回答）

#### (15) 特別清掃事業の意義

特別清掃事業の意義についてたずねたところ（表 18 特別清掃事業の意義（2009 年度調査・2007 年度調査））、「収入を得られる」と答えた人が 84.8%になった。次に「健康を維持できる（45.8%）」、「就労意欲を継続できる（39.6%）」、「仲間と一緒に働くことができる（37.8%）」、「社会に貢献／参加しているという意識がもてる（29.2%）」となった。前回の 2007 年度特別清掃調査に比べて、「技能を習得できる」が減少したのをのぞいて、「健康を維持できる」割合が約 2 割、それ以外の項目でも選択した割合が約 1 割増加した。

2009 年度調査			2007 年度調査		
項目	度数	割合	項目	度数	割合
収入を得られる	664	84.8%	収入を得ることができる	1054	75.3%
就労意欲を継続できる	310	39.6%	就労意欲を継続できる	402	28.7%
社会に貢献／参加しているという意識がもてる	229	29.2%	社会参加感覚を持てる	244	17.4%
仲間と一緒に働くことができる	296	37.8%	仲間と一緒に働ける	375	26.8%
技能を習得できる	33	4.2%	基本的な技能の習得	92	6.6%
健康を維持できる	359	45.8%	健康維持	375	26.8%
その他	12	1.5%	その他	20	1.4%
とくにない	7	0.9%	別に役立っていない	19	1.4%
有効回答数	783	100.0%	有効回答者数	1399	100.0%
不明・無回答	38	4.6%	不明・無回答	63	4.3%
回答総数	821	100.0%	回答総数	1462	100.0%

表 18 特別清掃事業の意義（2009 年度調査・2007 年度調査）（複数回答）

#### 特別清掃事業の意義ごとにみた因子得点表

	第一因子 （社会的就労）	第二因子 （収入手段）
固有値	2.05	0.99
寄与率	41.05	19.82
累積寄与率	41.05	60.87
収入を得られる	0.06	0.97
就労意欲の継続ができる	0.72	0.20
社会への貢献／参加	0.71	0.04
仲間と一緒に働ける	0.70	-0.17
健康を維持できる	0.71	0.12

特別清掃事業の意義について、主成分分析を試みた。得られた因子は次のようになった。

【第一因子 社会的就労】 この因子は就労意欲の継続ができる（0.72）、社会への貢献／参加（0.71）、健康を維持できる（0.71）、仲間と一緒に働ける（0.70）に強い相関がみられた。特別清掃を単に収入手段と捉えているわけではない因子だと考えられる。「社会的就労」

志向と名付ける。

【第二因子 収入手段】 この因子は収入を得られる(0.97)のみ因子得点が高くなっている。特別清掃を収入手段とのみ捉えている因子だと考えられる。「収入手段」志向と名付ける。

以上のように、特別清掃事業の意義については、「社会的就労」と捉える層と「収入手段」とのみ捉える層と大きくわけて二つの層から構成されていることがわかる。